



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

オマーン：石油・ガス生産に関するジャシュミ石油・ガス省次官の発言

(8月14日付 Observer 紙)

8月14日付 Observer 紙（英字紙）は、同紙の姉妹紙である「Oman」によるジャシュミ石油・ガス省次官へのインタビューの内容について報じている。

1. 原油埋蔵量

ジャシュミ石油・ガス省次官は、オマーンの原油埋蔵量は、500億バレルと見込まれ、そのうち50億バレルは生産可能な状態である。過去数年で、70億から80億バレルの石油が生産されており、採掘プログラムは順調に進展し、採掘技術は発展を遂げていると述べた。

2. 第61鉱区を巡るBPとの交渉状況

(1) ジャシュミ次官は、BPが投資を行っているガス田（第61鉱区）に関し、同社との間にいかなる紛争も存在しないとし、BPによる政府へのガス販売価格については交渉が進展中であると述べた。

(2) ジャシュミ次官は、政府とBPとの間で締結された協定において（採掘されたガスの政府と同社の配分の）割当量についてはいかなる具体的なモデルも触れられていないと述べた。同次官によると、割当量は民間企業間の競争及びコンセッションエリアに左右されるものであり、企業によっては政府に60%から70%を供給している。

3. 国内製油所の最近の動向

(1) ジャシュミ次官は、ドゥクム製油所は調査及び設計段階にあり、精製能力は23万バレル/日となる見込みである。これにより国内の石油製品への需要が満たされると同時に製油所に隣接して建設予定の石油化学工場の設立が支えられるであろうと述べた。同製油所は、国外からの原油の輸入にも対応するように設計され、2017年に操業開始予定である。

(2) また、ジャシュミ次官はソハール製油所の精製量の低下は、元来特定の油に対応し設計

されている同油所において処理されるオマーン産原油の質が変化したことにより、製油所の処理能率が低下したことが要因である。重質油の流入及びマハイズナ（Makhaizna）油田からの生産量の増加により精製能力に影響が出ていると述べた。

#### 4. 昨年の原油採掘現場におけるストライキに対する対応状況

ジャシュミ次官は、昨年石油部門で起こったストライキについて、石油部門に影響があったことを認め、ストライキが企業の生産に影響を与えることは自然であり、オマーンの石油部門も例外でないであろうと述べた。問題は解決されたかとの問いに対し、同次官は、人的資源省よりフォローアップが実施されており、関係部局が企業の労働者に対する義務の遵守状況について調査している旨述べた。